

粟野 4 地区合同(粟野、粕尾、永野、清洲)

人口	男	女	計	世帯数	世帯
粟野	1,376 人	1,296 人	2,672 人	粟野	1,023 世帯
粕尾	639 人	609 人	1,248 人	粕尾	490 世帯
永野	533 人	523 人	1,056 人	永野	394 世帯
清洲	1,223 人	1,231 人	2,454 人	清洲	874 世帯
計	3,771 人	3,659 人	7,430 人	世帯数	2,781 世帯

※人口、世帯数は令和 4 年 1 月 1 日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 地域とともにある学校づくり事業【教育・文化】

AWANO^{アワノ}夢咲く^{アート フェスティバル}ART FESTIVALを開催する。粟野4地区において、年2回、粟野中学校、旧粟野中学校、医王寺、常楽寺を会場に美術作品の展覧会を開催する。展覧会中に、作家を交えた鑑賞授業や音楽会を開催する。また、子ども達や一般市民を対象に「私たちの道祖神をつくろう」をテーマにワークショップを行う。

また、会期中に、地元の食材を利用したカレーやイチゴのデザート、ピザ等を提供しレストランを運営する。地域のお店と提携しローズクッキーの開発と販売を行う。さらに、バラ園をつくり管理する。

広報活動として、ホームページを作成して全国への周知を図り、案内マップの制作やケーブルテレビや新聞社等報道機関への取材の依頼をする。

展覧会作家や音楽家への謝礼、作品の搬入搬出費用
 ワorkshop材料、講師の交通費
 レストランの食材費、ローズクッキー開発費、バラ園管理用機材
 案内マップやホームページ制作費、管理費

《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	1,197,000	1,773,132	1,503,852	3,444,137	7,918,121
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	150,000	415,074	94,207	164,810	824,091
計	—	1,347,000	2,188,206	1,598,059	3,608,947	8,742,212

【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	1,347,000	2,188,206	1,598,059	3,608,947	8,742,212
計	—	1,347,000	2,188,206	1,598,059	3,608,947	8,742,212

《事業への取り組みを振り返って》

1 AWANO夢咲くART FESUTIVALに至る経緯について

鹿沼市立粟野中学校は、夢実現事業が開始する前から学校公開を行っていた。授業公開と地域の作家の展覧会を実施していた。平成28年に美術展を取り入れ、本物の作品の前で、制作作家と一緒に鑑賞授業の実施、期間中に音楽会や講演会を企画したのが発端となっている。

平成29年に鹿沼市夢実現事業がスタートした。そこで、平成30年4月1日に粟野中学校オープンスクール実行委員会を発足、粟野地域自治会連絡協議会と相談し、その年の10月30日に「花と芸術の街・あわの実行委員会」を発足し、粟野地域全域を活動の場とした。

この年には、展覧会場を粟野中学校と旧粟野中学校の2会場とし、粟野中学校オープンスクールとして、二人展と鑑賞授業、旧粟野中学校では、現代アート展と「私たちの道祖神をつくろう」をテーマにワークショップを開催し、多くの市民が参加した。

春、秋と年2回の開催を目指した。平成31年には、粟野中学校を会場に春フェスを開催した。二人展、バラ園鑑賞、そして、地元の食材を生かしたカレーやイチゴミルクなどの食を提供した。水の広場を舞台に音楽会を開き、隣接のランチルームをレストランとして開放した。準備や運営を実行委員会を中心に地域のボランティア団体や住民と生徒達が行った。

令和元年の秋から、「AWANO夢咲くART FESTIVAL」と名前を変えたが、台風19号による被害を受け中止した。そして、令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止した。令和3年の春から、展覧会のみで再開した。そして、秋には、会場を医王寺常楽寺を加えて4会場とした。



粟野中学校での音楽会

2 展覧会について

令和3年度までの展覧会は、11回を数え、展示作家は44名となる。分野は絵画、彫刻、インスタレーション、写真、書である。鑑賞者は、平均約千人となる。また、年によっては中学校、高校の美術部の展示やワークショップ作家の小作品や参加者の制作した作品を展示した。

展覧会のコンセプトは、現代的な粟野中学校と歴史ある旧粟野中学校のギャップ、レトロな雰囲気と現代アート作品のコラボレーション、伝統と歴史あるお寺と作品が織りなす美を味わうこと、粟野の美しい自然を堪能することを目的としていた。作家は、豊かな感性で作品を展示している。鑑賞者は、日常と異なる何かを感じて鑑賞している。そんな場面や感想に触れる機会が幾度もありました。美術館にはない素晴らしい体験である。



旧粟野中学校の展示作品

3 ワークショップについて

「私たちの道祖神をつくろう」をテーマに市民や地元小学生を対象に継続した。石や木、粘土を素材に思い思いの道祖神をつくり、絵画で表現した。石を彫る体験は、ほとんどの人が初めてであり、夢中になって作品を制作していた。

粕尾地区にある鹿沼市指定の文化財である双体道祖神を粟野地域の文化の象徴として考え、地域の方々、特に子ども達が知るきっかけとなるようなテーマにしている。



道祖神ワークショップ

4 音楽会について

オープニングセレモニーとして、毎回音楽会を開催してきた。旧粟野中学校でオカリナ演奏をしたツルタ・ハルさんは、旧校舎の雰囲気が好きになり「届け、私の歌」という曲を作ってしまったというエピソードもある。また、舞踊家の山田哲也さんは、彫刻作品の会場で即興で作品とコラボレーションした創作舞踊を披露した。



オープニングセレモニーの音楽会

5 鑑賞授業について

粟野中学校での展覧会では、必ず作家を交えて24回の公開鑑賞授業を行った。作品を制作した作家に直に聞くことができ、作品の本質に迫ることができた。作家の生き方や作品への思いや表現に対するこだわりなど、生徒達は食い入るように話を聞いていた。豊かな感性を培う大切な時間となった。



粟野中学校での鑑賞授業

6 バラ園の管理について

粟野中学校に80本のバラを植えバラ園をつくり管理している。バラ育成管理ボランティアを組織し、定期的な選定や消毒、除草を行っている。地域のボランティアの協力があって維持されてきた。美しいバラが咲く時期に合わせて展覧会を実施してきた。



粟野中学校のバラ園

7 関連事業について

(1) ローズクッキーの制作について

地元の洋菓子店との連携によって、粟野中学校のバラ園から発想を得て、ローズクッキーの開発と販売ができた。フェスティバル期間中や地域の方が集まる時に販売している。袋に貼るシールと箱に巻く帯のデザインを粟野中学校生徒が行った。地元や来客に定着しつつある。



手作りラベルのローズクッキー

(2) 粟野地域キャラクターの制作について

地域に募集をして粟野地域キャラクターを制作した。つつじの湯のイメージから「つつじの湯太郎」と「つつゆちゃん」が誕生した。ポスターやチラシ、パンフレット等に使用している。

8 成果と課題について

(1) 成果

地域とともにある学校づくりを事業テーマとして継続してきた活動を通して、多くの成果を確認することができる。少子化、高齢化が進行している時代だからこそ、故郷の良さや地域住民の協力、人の繋がりが心豊かな生活の土台となり、地域文化を高め人生を楽しくしていくために必要な事であることを認識することができる。



メイン会場の旧粟野中学校

美しい風景や魅力ある建物に芸術が加わることで、更なる魅力を発揮することが可能となることを実感した。

実行委員会の立ち上げから、現在まで一貫して協力を惜しまない実行委員の皆様とボランティアの方々がいる事が最大の成果である。

AWANO夢咲くART FESTIVALは全国に発信されている。かかわりたい人は、確実に増えている。作家の繋がりは、放射状に広がっている。粟野地域に移住したいと考える若者達がいる事も事実である。

(2) 課題

地域の魅力を見だし、地域の活性化に興味関心を持ち、故郷を大切に、誇りを持って生活しようとする人材を増やす事が大切と考える。

学校教育において、体験活動や交流活動、地域学習やキャリア教育、芸術活動などに地域が関わる事が必要ではないでしょうか。



目指す方向に向かって